

ヤマブドウ春期の管理について

ヤマブドウ栽培では、適期に作業を実施することが重要です。春期（3月下旬～4月中旬）には以下の作業を行いますので、参考にして下さい。

- ①施設の点検・・・支柱や番線等の補修が必要か点検します
- ②誘引の実施・・・伸長した主枝を番線等に紐で縛ります
- ③施肥の実施・・・有機肥料を垣根間に散布します

1 はじめに

平成16年の春に植栽した2年目の樹は、骨格を形成する重要な時期であり伸長生長を促進させることを主目的として栽培管理を行います。ここでは、平成16年に植栽したヤマブドウ涼実紫について、春期の管理を具体的に紹介します。

2 施設(垣根)の点検

雪や風等で支柱が傾いたり、番線に傷がついていないか確認し、必要に応じて補修します。

雪害対策のために番線をゆるませている場合は、ターンバックルを回転させる等して、誘引前に番線のゆるみをとります。

3 誘引の実施

誘引とは、枝を垣根の番線に均等に配置して紐で縛り、伸長した新梢の巻きひげを番線にからみつきやすくする目的で行う作業です。ヤマブドウは4月中旬には冬芽が膨らん

でくるので(写真1)、それ以降に誘引作業を行うと、作業中に芽を欠いてしまうことになるので、3月中に作業を終了させましょう。

誘引では、きつく縛ると肥大成長に伴って紐を巻き込んでしまうので、あまり強く締め付けないように縛ります(写真2)。

なお、誘引にはすずらんテープ等を用いますが、麻紐を用いると冬期に剪定で紐を切断し園地に散乱しても、麻紐は腐植しますから環境に優しく、また切断した紐を回収する手間が省けて冬期の作業軽減につながります。

4 施肥の実施

肥料の種類は完熟堆肥等の有機肥料とし、特に特定の栄養要素の欠乏が見られなければ化学肥料は使用しません。肥料は垣根間に散布することとし、傾斜地では肥料が流亡しないように垣根間を耕耘せず草生栽培とする等の対策を行いましょう。



写真1 膨らみはじめた冬芽



写真2 番線への枝の縛り方

(担当 林業専門技術員 伊東茂敏、 特用林産部 主任専門研究員 泉 憲裕)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11
 岩手県林業技術センター
 ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/hp1017/>

TEL 019-697-1536
 FAX 019-697-1410